12
881
28

宮城県図書館蔵書

毎夫　東五五

巻名　細　以絹并文字号之ゝ也大よそ[illegible]
[illegible]氏絶たぬ世の[illegible]
のゝあり竪[illegible]也　河花翠花同

こゝ法[illegible]人のゝとくさに　細　をゝ[illegible]乃ゝを中して源氏の
の給也　采日ゝ[illegible]乃詞也
四乃[illegible]いとゝ[illegible]
氏の[illegible]
行ゝ也　細　をゝ[illegible]也[illegible]
ゝとゝ[illegible]
ゝとゝ[illegible]
細　ゝとゝ[illegible]
ゝ人ゝ[illegible]

きこえたるとも

かく人よりもをひはらんとてそんしぬるなれ

宋 元八内府乃ゑくく姫君を人よりもをひはらんとて

かゝに世にあつかひ可然ものゝ

もとゆるさまくあらぬ心もちなりとも

人よりもをんなをもをはるまゝ

いとをしくし給あまりまた 細 内大臣れんつゝも

宋 内府のゑんゆるしにより姫君のゝ

もを見出てをも四可細もをられたるやうにとゝ

くさにはかりそれ行とのゝ源乃はんも

あるれんゆもをつゝもてゝくんをうるゝもの

ちゝあるものなたるゝ人ゝとゝにあるゝ

なるゝゝゝれるゝ物をあれとゝ

いとわるゝゝ話 細 よく為てを

為ちゝてみとゝよむ心よりもを給ゝとの左を為ゝ紀と源

乃もとゝ紀之給也

ゝゝ為ゝつゝをてゝを事みゝくゝてゝをゝ也やゝとゝゝゝゝゝ

しゝ給のゝゝんゝをゝゝ也ゝゝゝゝゝ

さとびたるもとの
みてきぬるそうひさんとさてはんのまうにと
さちてちとをもてなす紙はんのこま
さうとなへハ 宋 源をちうれ下んをうさんもはうろ
よさうをてをちてんのまうへきゆうにちといなれ
とのむうへんなへ
やうくちうへうをうをまし弱 宋 玉鬘れ源氏よ
うをなや
れうよあうぬうろ風をくしくはてあせこうろをう
らさしさ心ちゝ弱よ無ひうり
はうぶ 祝風ろをしくあをハウ世せこう衣のもをれうそさしき
梅河鉄之の字ぬ何 細 はう海ろ引ぬ不斜 只せこう衣
やハうゝさしさをうんちあの梅河よろうへゝ左今

我せこう衣れをとと吹うへしうあうゝき れろ弱風
のんぬへゝ 宋 所流みえ引ぬをとうをとそうあう
うや引ぬをはうゝをとうう
ひとをもくやうう弱てあうゝまゝうゝゝ はれるひ
うをひのんや源む鬘へ弱当や
はをうをとをあうゝうゝ弱ぬ 細 和琴や
ふをうのの夕用紙ハくゝうてをうゝ雲ぬうるゝきゝき
れうをうをとやうくを表ちるかとにあうはをと
をうをうゝみくをうをにうをひゝ紙うう
琴 ひうをやうを
うゝ源をうをひはうんやをうをうをうをはゝ
紙をんうをうをゝんをとをあのをハ 細 玉鬘のんや
宋 釈子の弾琴とうひくハあ紙をうをうをひをうへ

きこえとやの弓勢のむかふへ
ふるやと張りむとて引きまへのうるとやとうつ
あるをと 細 ひつう張りすん 宗 源氏物語 あらんとれすと云
はとこたうたをたうをとめ〜ゆうとゆ〜つきさを行
もくしまたるを 同 ちくとをは監叙爵（ヒヤウ）〜うや 宗 雅
たうや〜源氏物語 ちうやや
やうれうかうとにきく〜さきたとに引ろうろ〜ゆ〜
雅 うるとやを必ゆれうるたに焼ややとやて清〜く
もくしくうまへゆうや
まゆこの赤れトにうちまひはとうくしうぬはとにを
きてうう〜ちうとうきてうれいはうれ前ろうはいてを
もくうをはう〜きはとたうれうよ女のはうさ海
雅 うるたにうちへくうゆひゆたにうち和とうみ 細 池水

ちとのうるたにうるとやと央の高を垂くうちつれくを
ろ松たうう
乃ろたにひうはうく〜れてあうるといと引やうたはて
くうれ引ふうち〜ゆうちうをぬうちたはをはくまと
宗 弓勢れさ海を源氏物語 ゆうはくれ清ふんや
はは〜ゆるをを〜ないとらうくをううるうく者し
やをうを海 宗 源氏物語 行はまゆうへ〜
ううたにへさうひくうるう者よ 細 源の下 行や
宗 源氏物語乃張うをを央をうををや
夏乃はうれ引とと海れ引ろをいとはは出〜〜くは
引りうう〜やうの張ふ 細 杜よはぬをううて夏の月うれ
とはうる海ゆ〜ゆうるうちを源〜〜れと杜とうひ杜の
うちを張器をれて夏とうるんの月をうや

元 物なれといまさあつさ忘れぬるに月とつみてやみぬ立
秋節ハ家古南中なれハ夏とそやや 宗 初秋の比る
出雲いまさ黒雲乃わりてさあつさ夏のやなれ
とぬひつつ物なも夏とも思つさ乃物よりなれ
きぬるうちまをてはつる可給とや
るとやなる立そふ恋乃煙こそふハ絶をなはのかちゆき
紙 我こひをはつるとやなる立ふをなこちるとなれちうよん
路とも 宗 原高やや恋乃煙うゆをとやなる立そへハ絶
せなはのかとなるこのんやはつるみを雪とをうに面
もをたなとなる心をもなれよ人宮なるへ〜世乃
宮なりはつるを
つまてをうやなひるなてとはるるきとなもなけを
やをやを路ふ女恋あやしれ宮さあやとなひたり

紙 引高夏なれハ宮なりるを物き火のつのまてわる多
下もしにとんとあるをとハ下にもしぬとるるきとや
宗 物なれ物き火乃路よりを物るるハるけをとなるひの
下もんくるるきこのんをとるる 引高同なれ修行
ゆくをなれ宮にもてよかるを火乃たるるをるを煙とあるれ
紙 毎火の焼さをハやてをゆる煙乃てとくたるるあるハやる
て宮にをこあへをとや 宗 毎火の煙ハ宮にをゆるれを
ををるをくをひあるゆるてをとなへ〜 宗 恋なをるを
原のをひ乃煙をを火ををるるをんをを煙ハををを行を
なれ物なれをるれとを
し路へとや
人の乃やをとをひ行をんをとをるを行へハ 紙 恋なのんや
宗 ををの乃るやをとをるを路恋れんや

くりやとて　元　もとつやとてるとも云詞也　細　はるゝ
いるとも云詞也　和秘同　仍　紅梅のゑさゝゝはるとゝるも
東乃殿の御はなゝ　宋　花薄墨のゝゝ
はるゝ　はあるもあり　宋　菊と菖蒲を　宋　はるもるも
中納の君とゝ　宋　ゝ　ゝ　ゝ

源家のゆゑにめされつゝ
殿中ねんぶつをひゝてゝくそそてかゝるこゝろをとゝ
源乃法師ちゝ殿中ねんぶつしくたるよりとゝく色を
たゝてゝくしくさめしひゝるゝさも
年れの将軍のうちゐてゝ西ひやうたうゝ色をもゝにま
ゝひゝとうさうをうちうとうゝさうを行ひて 細 ちゝ出たと
八元の殿より及ハゝるもゝこゝろゝ元出ちれハゝとゝゝ
頃 ちゝ出とハ行もれもゝこゝろゝ元もゝるゆゝにゝとゝてゝう
寛平法王紀のんを宮まや 宗 殿中ねんぶつをゝゝさあれゝ合
中の年おねゝそゝうとうゝ元もゝ新ゝゝ元の時ゝゝ
ひゝ人一限ゝゝ元ゝ人も殿中出ゝゝうひゝゝとゝ八宗乃中
に殿出色ゝ元拍ちれゝめ法ゝゝ
時ねゝ八中ねゝゝゆゝゝ殿ゝ行きゝ元ゝのゝゝ殿ゝゝ

ねゝさゝゝねゝゝゝもゝゝゝゝれやゝゝに物ゝゝゝゝ中将 細 物語也
ゝゝのゝゝゝ 細 源の初ゝ琴ゝのゝゝ 行 琴のゝゝゝゝ八元也
物のゝゝゝゝゝゝゝゝ 宗 琴ゝゝゝゝゝ乃中
みゝゝゝゝ殿ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゐなる袁さもあれうゝとおぼしもせ　宋　源の我はようひの
ゝをゝ行ゝゝとの給へうゝ酔給ていはゝゝとゝひあ
さんゝとの用ゐも下に武蔵よりおさうれたんあきいはせ
の給へゝ武蔵の兄弟をとゝめられたんはゝゝも
ゝひんゝ乃はいゝくにゝゝ乃ゝゝゝ

ひきうとめくるとあるやうに　弾正中将さうまりあるこそ

紙　花合司馬相如琴ふきて挑るをひきりあり面白し

八紙